

## 石巻市民が現状や課題

三島で東北復興シンポジウム

三島市のNPO法人「子代表、サッカースポーツグラウンドワーク（G17）」が主催する「東北復興シンポジウム」が十一日、三島市社会福祉会館で開かれた。宮城県石巻市など被災地の市民四人がパネリストとして、東日本大震災から一年が過ぎた被災地の現状や課題を語った。

三島市のNPO法人「子代表、サッカースポーツグラウンドワーク（G17）」が主催する「東北復興シンポジウム」が十一日、三島市社会福祉会館で開かれた。宮城県石巻市など被災地の市民四人がパネリストとして、東日本大震災から一年が過ぎた被災地の現状や課題を語った。

石巻市からは石巻専修大の李東勲准教授（経営学）、石巻少年少女合唱隊の千葉美貴

二人暮らし、また同居の子どもも高齢化している世帯などを、しっかり支えるのが今後の課題」と述べた。

石巻市からは石巻専修大の李東勲准教授（経営学）、石巻少年少女合唱隊の千葉美貴

「一人暮らしや老夫婦が出席した。李准教授は、自身が参加する在宅被災者ケアの活動を説明しながら「阪神大震災で、独居老人の孤独死が問題化したのは、発生から一〜二年後」と指摘。

石巻市からは石巻専修大の李東勲准教授（経営学）、石巻少年少女合唱隊の千葉美貴

「一人暮らしや老夫婦呼び掛けた。（酒井健）

また「主力産業の漁業と水産加工業は全滅の状態。若者が夢を持ち、石巻で暮らせる何かを作らなければならない」と述べ「自分たちの手で、誇りある復興をすることが必要」と目標を掲げた。

その上で、聴衆に対し「被災地の行政や企業を温かく、厳しい目で見守ってほしい」と呼び掛けた。（酒井健）